

ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 スーパー・マジョリティ	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.570	△RG 0.035	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：スーパー・マジョリティ

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

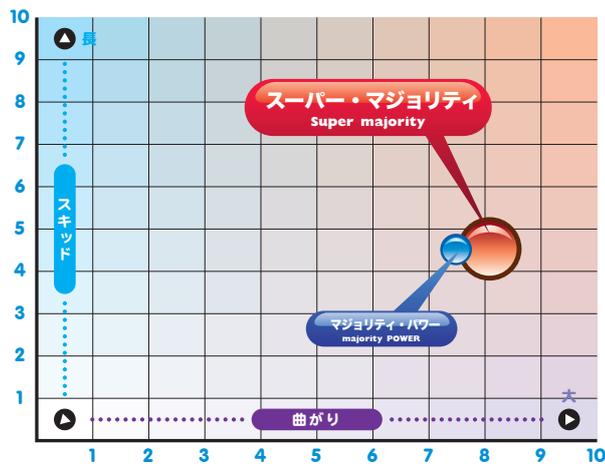
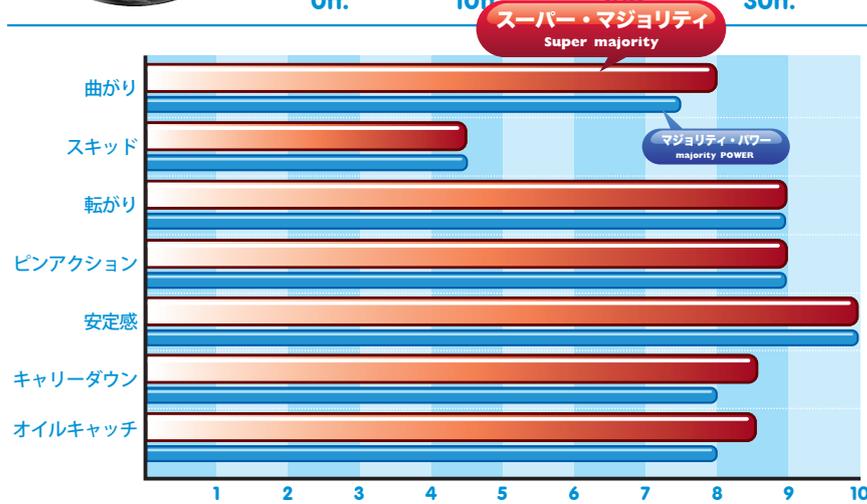
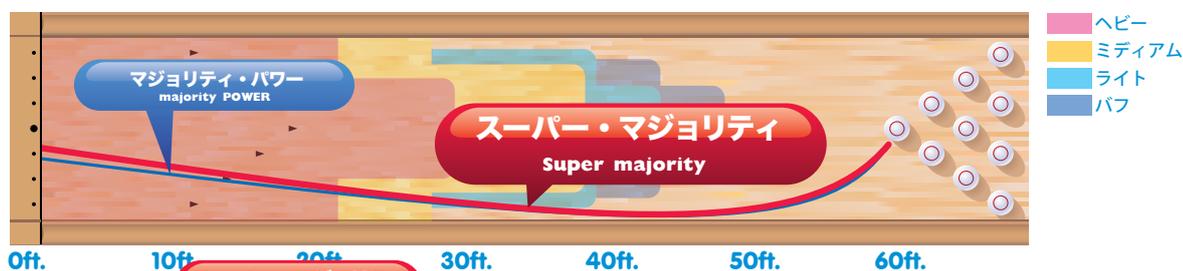
PAPからピンとの距離 **4** インチ

比較対照ボール：マジョリティ・パワー

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ



ボールの評価

majorityシリーズは一貫して同じコアを使用しており、ファーストボールの位置づけというよりはミディアムから下の領域を担う性能のため、大会での中盤から後半、またはややスピードが遅めの方にラインナップとして組み込んでいただいているかと思えます。今まで主に後半に活躍できるスペックとしてPearl素材をベースに開発を進めてきましたが、今回のSuper majorityは、対称コアの持続性のある転がり感と素直なRoll期の安定感を活かし、用途を広げやや中盤戦にも使用できるようHybrid素材をベースに開発を進めました。Hybrid化されたカバーストックによりキャッチ感が増したことで、歴代majorityとの比較ではやや戸惑いもありましたが、Super majorityよりも上のパフォーマンスのボールも交えてテストングをすると、スムーズにオイルを捉えることができ、ボールチェンジも戸惑いなくアジャストできました。

majorityシリーズを使用する際いつも思うことは、コアの運動特性が手から離れた瞬間からピンヒットまで持続し、無駄なく素直に転がるため、軌道の読みやすい曲がり感が期待できることです。非対称のコアベースのボールはカバーストックが進化するほど、オイル上の利点もあれば欠点もあります。利点だけを使いコンディションを攻略するのであれば、迷わずボールチェンジをすれば良いので、このSuper majorityの役割も非常に大きくなるのではないかと思います。

配色も2トーンのシルバーブラックのため、深みのあるブラックで綺麗に仕上がっています。

現在主流のボールで、中間層のパフォーマンス、対称コアのスペックで高品質のボールはなかなか見つかりません。ABSのmajorityシリーズはその領域に特化したスペックですので、発売されたときには特にチェックが必要です。

特記事項

majorityシリーズ初のHybridカバー採用。
対称コアならではの持続的な転がり感があり、ミディアムコンディションに抜群な性能を発揮できます。